

事業活動報告

事業所名 デイセンターぽればれ

<p>1. 2017年度 事業所方針 【生活介護】</p> <p><方針>○安心感と見通しのある毎日を人とのかかわりのなかで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民として生きている」実感を地域や社会、人とのつながりのなかでつくり、ひとりひとりの豊かな人生を援助する実践を追求します。 ・ありのままの姿に寄り添い、安心して自分を出せる場所、ほっとできる居場所づくりを進めます。 ・「学び」を意識し、共に学び語り合える職員集団をめざします。
<p>2. 利用者・職員状況について</p> <p>○利用者 定員20名 ・契約者数 48名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曜日別利用者数 (月) 16名 (火) 14名 (水) 14名 (木) 17名 (金) 13名 (土) 15～20名 ・併用利用先 かめおか作業所 第二かめおか作業所 太陽共同作業所 花ノ木 ワークスおーい あしたーる はるの里 支援センター圭
<p>3. 2017年度の実践内容について</p> <p><実践内容></p> <p>高齢期で身体が思うように動かないメンバー、気持ちの落ち着かない壮年期のメンバー、重度の自閉症やてんかん発作など障害特性の様々な青年期のメンバーの混在する中で、色々な「活動」を提案することは意義があったと思います。ぽればれの方針でもある「自分を出せる場所、ほっとできる居場所」づくりは、ゆっくり、のんびりする場だけでなく「活動」の中にもあると思います。ありのままの自分を表現したり、活躍してもしなくてもお互いに認めあったりできる場があったか…。さんぽ（ドライブ）だけでなく、次年度は一層細分化する活動も検討が必要です。</p> <p><生活、健康></p> <p>これまででも取り上げてきたように、メンバーの健康を守る、支えることについては大きな課題があります。自分の体調の変化に気づきにくい、気づいても訴えることができないなどの難しさがあるなかで、「いつもの様子」をしっかりと知っていることと、「いつもと違う」ことに気づく力が大変重要です。今年度も「気になること」については素早い対応を心がけ、家族、医療機関、相談機関、看護師などと連携しながら、様々起こることに対処する日々でした。メンバーがみせる姿から、私たちがなにを学びとり、障害のある人たちの健康、命を守り支えるために何をするか、職員ひとりひとりがしっかりと思いを出しあいながら考えていきたいと思っています。</p> <p><地域とのつながり></p> <p>今年度後半期から『ご近所の掃除』を始めました。お天気のいい日を選んでのとりくみとなり、寒い時期にはなかなか外へでることができていませんが、来年度は継続したとりくみにし、新たな「やりがいづくり」や「必要とされている」場面づくり、地域とのあらたなつながりづくりをしたいと思っています。</p>

<職員集団>

ぼれぼれでの1日の主な業務について担当を明確にして、職員誰もがどの役割も担うことができるようにしようととりくんできました。このようなことを通して、職員集団としてメンバーの支援にむかうことや互いにコミュニケーションをとり、連携することに一定効果がでてきているのではないかと考えています。また、法人全体の虐待防止研修やヒヤリハット報告の作成を通じて学んできている「風通しのよい職場、職員集団づくり」について意識することが少しずつできてきつつあるのではないかと感じています。

4. 2018年度への課題について

- ・個別支援計画、モニタリングの計画的実施。
 - ・服薬確認表、食事介助時の確認事項表の作成検討。必要性や内容の整理。
 - ・内外部への学習会、研修会への参加と合わせて、職員個々の「学びたいこと」を年間目標のなか
- に挙げ、個別学習も進める。